

南部地域における学校統合に関する協議状況について

秋田市小・中学校適正配置基本方針に基づき、地域ブロック協議会において、学校統合の方向性（学校の組合せ）が決定した地域については、学校統合検討委員会で統合の可否を検討しています。

南部地域では、令和元年から、地域協議の第1段階である地域ブロック協議会を5回開催しており、協議状況については以下のとおりとなっております。

1 南部地域ブロック協議会【第1段階】

(1) 第1回（令和元年8月22日開催）

ア 主な意見等

- ・基本方針に「必要に応じて学区の見直しを行う」とあるが、協議会の最初から学区の見直しを図るべきではないか。
- ・地域コミュニティは小学校単位で培われていて、小規模校ほど地域とのつながりは強いので、地域コミュニティの所管部局と十分な連携を図ってほしい。

イ 今回の協議会で決定した事項

- ・南部地域ブロック内の学校の組合せを考えるため、今回の協議内容を踏まえ、各所属団体の意見を集約し、次回以降も現状や課題について協議を続ける。

(2) 第2回（令和元年11月6日開催）

ア 主な意見等

- ・未就学時の保護者からは、学校がなくなることは寂しいが、人口減少は事実であるため、統合もやむを得ないとの意見があった。
- ・中学校の上限は3校であり、現状の3校（城南中、御野場中、御所野学院中）のままとすることに賛成である。
- ・教育委員会から示される統合案がなければ、話が進まないため、次回、検討のたたき台となる統合案を示してほしい。

イ 今回の協議会で決定した事項

- ・中学校の上限は3校で現状と変わらないため、今後は現在の中学校3校を存続させるものとする。
- ・協議会からの要請を受け、たたき台として、次回教育委員会が学校適正配置に向けた統合シミュレーション（学校の組合せ）を示す。

(3) 第3回（令和2年2月5日開催）

ア 主な意見等

- ・南部地域には複式学級となっている学校はないので、早急に統合する必要はない。
- ・今回、6年後の児童数の推移が示されたが、この数値だけ見て統合の方向性を判断することはいかなものか。

イ 今回の協議会で決定した事項

- ・今回示した小学校の統合の組合せ（案）に対して、引き続き、意見交換するため、各委員が所属団体等の意見を集約し、次回以降、現状や課題について協議を継続する。

(4) 第4回（令和2年8月5日開催）

ア 主な意見等

- ・現在の地域と連携した教育環境が良いことのほか、複式学級もないため、統合は時期尚早である。
- ・地方に移住する若い世代がこれから増えることが予想されるため、現在の小学校をそのまま存続し、教育環境を整えておく必要がある。

イ 今回の協議会で決定した事項

- ・次回、小学校の統合について、各所属団体の意見集約を行ったうえで、協議を継続する。

(5) 第5回（令和3年2月22日開催）

ア 主な意見等

- ・南部地域では、児童数の顕著な減少が見られないことから、5年後の児童数推移を見ながら、協議を再開してはどうか。
- ・協議会を通じて、地域やPTA内で問題を提起することができたので、引き続き、十分な情報提供をしてほしい。

イ 今回の協議会で決定した事項

- ・南部地域ブロック協議会は、一旦休止とするが、5年後の児童数の推移を見ながら、協議の再開を検討する。
- ・協議会の休止中は、再開時期を判断するため、児童数の推移や他地域の検討状況などについて、教育委員会から、地域やPTAの各団体に情報提供する。

- ・令和3年度 各ブロック協議会委員へ児童生徒数の推移などの資料送付
- ・令和4年度 各ブロック協議会委員へ児童生徒数の推移などの資料送付
- ・令和5年5月26日 南部地域づくり協議会理事会において、適正配置の概要、児童生徒数の推移などについて、説明を行った。
- ・令和5年度 各ブロック協議会委員へ児童生徒数の推移などの資料送付
- ・令和6年5月28日 南部地域づくり協議会理事会において、適正配置の概要、児童生徒数の推移などについて、説明を行った。